

ぞく
続

知
ち

豊川物語
とよかわものがたり

温
おん

新
しん

2021

故
こ

おん こ ち しん
温故知新とは…?

かこ 過去のことを調べて、そこから
あたらし ちしき かんが 新たな知識や考え方を得ること。

とよかわち いき うんえいきょうぎ かいだい ぶんか かい ぶんか れきし きょういく
豊川地域コミュニティ運営協議会第3分科会(文化歴史・教育)

はじめに

豊川コミュニティ運営協議会第3分科会では、令和3年度「続・温故知新～豊川物語2021～」を作成させていただきました。既に刊行されている「温故知新～豊川物語～」の続編となります。

この豊川地区は、「成田地区」「飯泉地区」「桑原地区」の3地区が集まり「豊川地区」となります。そして、今回の作成にあたり協議の中で「前回の深掘りをしたものの作成物」という意見があり、3地区それぞれのアイデアで原稿を集めさせていただき、各地区それぞれ特色のある構成となりました。途中での協議のなかには各地域の原稿フォーマットをそろえての構成にしてはどうか、との意見もありましたが、これも協議の中で親しみやすく読んでいただくには、少しバラエティーさがあっても良いとの意見でまとまり、作成にあたらさせていただきました。

今後も第3分科会では豊川地域の文化・歴史について各地区の行事や地域内の取り組みやそれに対する歴史など、地域内の情報を共有しあうツールや企画を提供して、それらを地域コミュニティ活動に繋がれば幸いです。

豊川地域コミュニティ運営協議会第3分科会長
大川 晋作

目次

●ルーツ

くわはらちく
桑原地区……………4

くわはら れきし さかわがわ
桑原の歴史と酒匂川

なるだちく
成田地区……………8

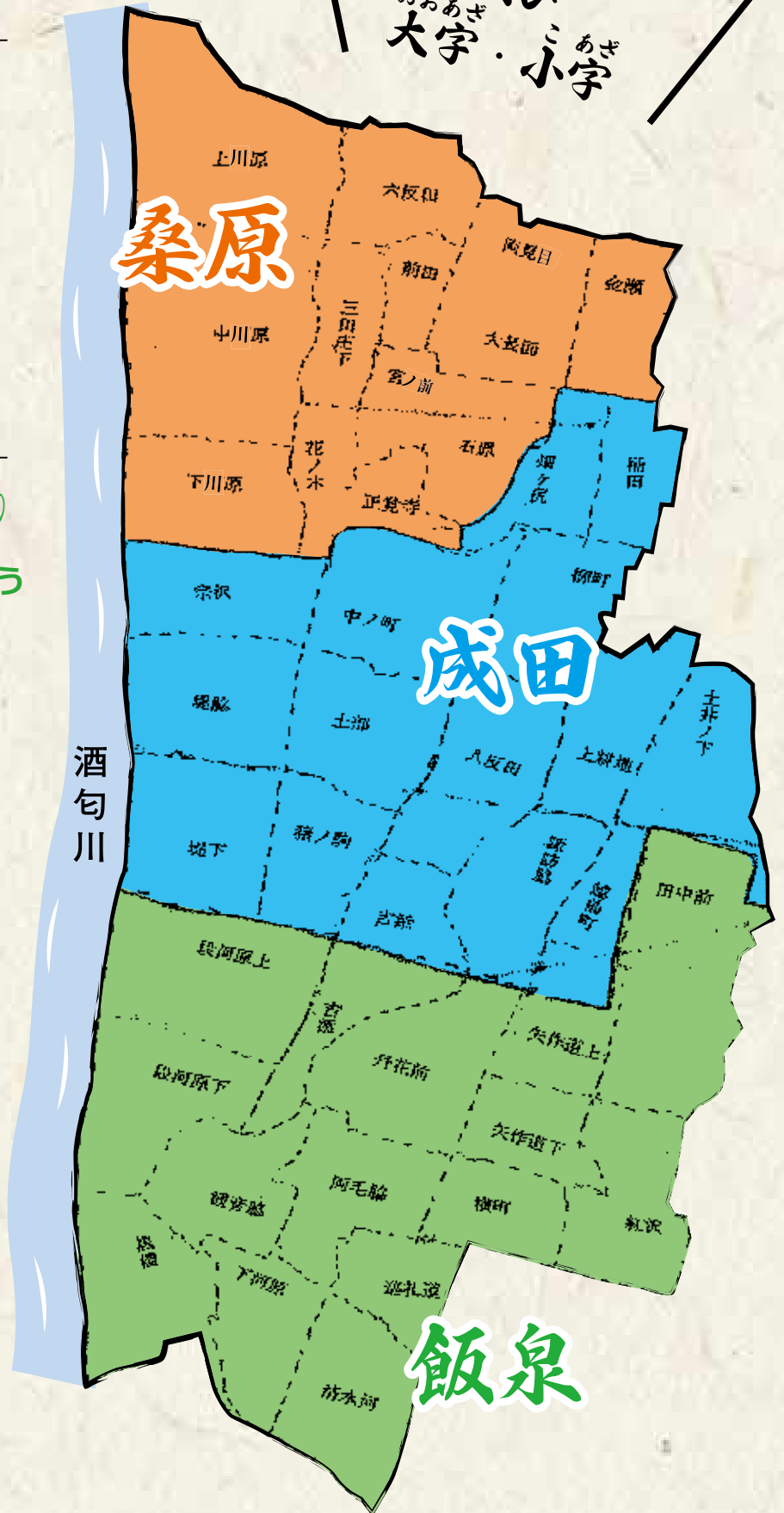
なるだ なりた な た
成田と成田の成り立ち

●史跡探索

いづみちく
飯泉地区……………10

いづみかんのん さが
飯泉観音で探してみよう

むかし
昔の豊川の地形
とよかわ
および
おあき
大学・小学



※どう読むのか

しらべてみましょう！

(どうしてこの名が
ついたのだろう?)

桑原の歴史と酒匂川（桑原地区）

1 はじめに

桑原地区は相模湾に注ぐ酒匂川の左岸、豊川地域の北部に位置しており、酒匂川の豊富な水の恩恵を受けて、古くから稲作を主とする伝統的な農業地帯でありました。現在においても、市街化調整区域に指定され、米作りが盛んに行われています。

今回は、足柄平野に出てから15kmと急勾配で暴れ川と呼ばれ、過去に氾濫により幾度となく被災し、その都度治水工事等を繰り返してきた酒匂川の歴史や、豊川村が小田原市に合併した昭和29年7月以降の主な出来事などについてまとめてみました。平成31年3月20日に発行された「温故知新～豊川物語～」と併せて過去の歴史を振り返ってみましょう。

2 酒匂川と農業用水路

(1) 酒匂川は人の力で整備

戦国時代の酒匂川は、今の酒匂川より西側を何本にも分かれて流れていました。そのため、川の氾濫が多く水田面積が少なかったそうです。江戸時代に入り、新田開発（荒地を新たに田んぼに開発）が盛んに行われたことから、治水工事により川の整備が行われました。急流である酒匂川は川の流れを弱め、弱められた流れが円を描き、ゆったりと1本になるように、3つの土手（春日森土手、岩流瀬土手、大口土手）が整備され、現在のよう足柄平野のほぼ中央を流れるようになりました。

(2) 富士山宝永大噴火と酒匂川

富士山の宝永大噴火（1707年12月16日）により酒匂川の上流には降り砂が深く積もり、1711年の大雨による大洪水により、足柄平野には今までにない大量の砂が押し寄せ、2つの土手は大きく壊れ、酒匂川は以前と同様に平野の西側に何本も分かれて流れるようになりました。そこで、村人たちは幕府に土手を修理して元の流れに変えてもらうように何度もお願いに行き、幕府は治水・利水事業に詳しい、田中丘隅を派遣し土手の復興に取り掛からせたそうです。そのおかげで、1726年に土手が復興され、酒匂川の流れは今の形となりました。

しかし、その5年後の1731年には、1年に4回もの大洪水が起き、3つの土手は大丈夫でしたが、今度は酒匂川の東側の西大井の土手が1400m決壊し、西大井より下流の桑原・成田などほとんどが流されてしまいました。

噴火後の酒匂川は、堆積した噴火灰で川底が高くなったことにより、約80年にもわたり、大雨のたびに氾濫を起していました。

さらに桑原は、1910（明治43）年にも富士道橋下の堤が決壊しており、2年かけて頑丈な割石セメント工事により頑丈な堤防が完成しました。そして1913（大正2）年9月に水神碑が建てられ、毎年一番干しの時期に、用水路の草刈りを桑原生産組合員総出で行った後に、桑原生産組合員、三島神社世話人により「水神祭」が行われています。水神様は、水耕栽培の神様です。

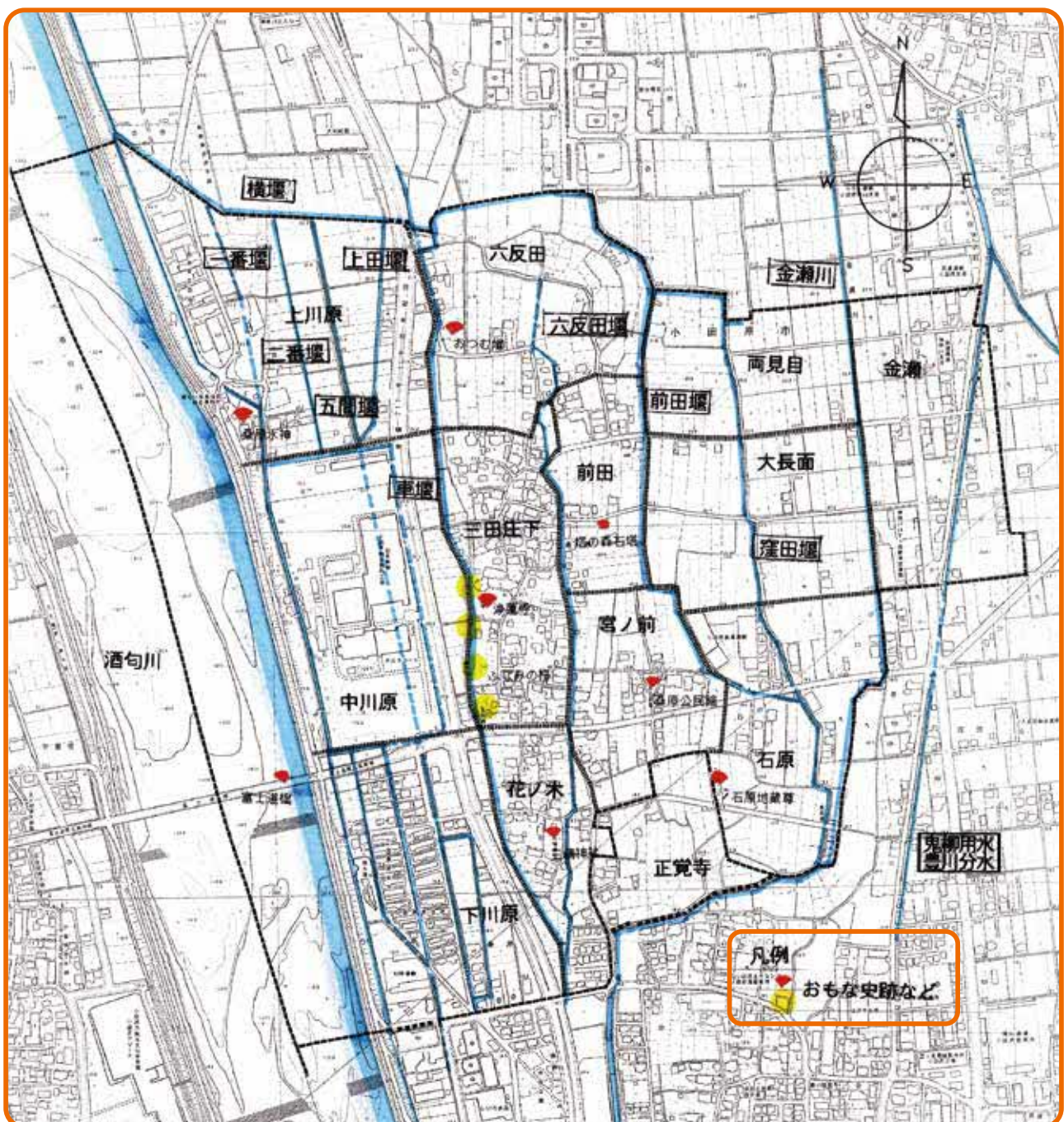
(3) 農業用水路

酒匂川左岸の農業用水は、右岸（山北町）から取水し、酒匂川と川音川の川底6mのと

ころに直径2mの管を埋め、サイホンの原理を利用して左岸に送水しています。現在、左
 岸に運ばれた水は、農業用に整備された酒匂堰、金田堰、鬼柳堰などに分水され左岸の田
 畑を潤しています。その整備された農業用水路のことを、この地域では堰（せぎ）と言
 います。桑原には、一番堰、二番堰、五間堰、上田堰、車堰、六反田堰、前田堰、窪田堰、
 鬼柳用水豊川分水などが流れています。

この堰により、酒匂川から取水された用水が田畑を潤し、美味しいお米が作られていま
 す。田んぼは大雨が降った場合のダム役目も果たしています。近年、田んぼが減り宅地
 が増えており、雨水をためてくれるところが足りません。また、堰は雨水を海に運ぶため
 の排水路としての重要な役割も果たしています。

3 桑原地区の主な農業用水路



4 桑原の主な出来事

昭和29年(1954)7月に豊川村が小田原市に合併した後、60有余年が経ちましたが、どんな出来事が起こったか、振り返ってみましょう。

(1) まず、人口と世帯数の変化です。令和2年10月の桑原の人口は967人、世帯数は409戸で昭和29年当時と比べてそれぞれ1.8倍、4.7倍になりました。豊川全体では5.1倍、13.1倍であり、飯泉・成田が大きく増加しており、市街化の進展の違いを反映しています。近年の世帯数の増加は、優良田園住宅型連たん区域開発許可制度により、自然環境が残る土地への若い世代の移住が増えたためです。一方、昭和36年から市営桑原住宅建設が進められて、106戸の世帯増加になりました。近年は高齢化が進み62世帯に減少しています。

(2) 合併の年に桑原公民館が建設されました。地域住民の集会の場として機能してきましたが、耐震構造や老朽化などから建て替えの課題があり、自治会が検討を始めています。

(3) 交通インフラの変化をみると、昭和35年に県道717号線の制定、昭和41年に国道255号線も開通、昭和55年には富士道橋の架け替えが行われ、また平成7年に県道711号線の開通などがあり、交通環境が整いました。

(4) 教育分野では、昭和58年に豊川小学校が開校し、団塊ジュニアが千代小学校から移ることになりました。

(5) 昭和61年には桑原地区の有志により「ふじみの桜」植樹が行われ、桜土手が整備されました。桜の開花時期には自治会と清寿会やボランティア会など関係団体による花見会が行われ、住民の親睦を深めています。また、ぼんぼりが掲げられ、近隣の人々が散策に訪れています。

(6) 産業分野では、昭和39年に日本新薬(株)小田原工場が、さらに昭和57年に小田原木工団地が完成し、住民と親和を図りながら桑原地区の工場として位置づいてきました。

このように主な出来事を振り返ってみると、桑原は急激な市街化の波を受けることなく、新しい世帯とのきずなを築きながら地域コミュニティづくりを進めてきたと思われま。

【図表1】 豊川の人口(上段人)、世帯数(下段戸)の変化

	昭和29年 6月1日 (1954)	平成2年 10月1日 (1990)	令和2年 10月1日 (2020)	66年間の 倍率
桑原	538	1,235	967	1.8
	87	348	409	4.7
成田	753	2,158	3,779	5.0
	126	988	1,565	12.4
飯泉	784	4,274	5,895	7.5
	125	1,330	2,466	19.7
計	2,075	7,667	10,641	5.1
	338	2,666	4,440	13.1

【図表2】 豊川小学校の児童数の変化

	昭和58年4月 (1983)	平成4年4月 (1992)	令和3年2月 (2021)
クラス数	20	20	22
児童数	757	579	638

* 昭和58年4月、加藤義七校長以下職員29名、児童757名をもって開校。千代小より389名、矢作小より248名、新1年生104名、他学区からの転入生16名。

5 くわはら しゅうへん おも あゆ お だ わ ら し が っ べ い げ ん ざ い
 桑原とその周辺の主な歩み = 小田原市への合併から現在まで =

わ れ き 和 暦	せい れ き 西 暦	で き 事 出 来 事
しょうわ ねん がつ 昭和29年 7月	1954	とよかわむら お だ わ ら し が っ べ い ぜん こ すう こ 豊川村など小田原市に合併。全戸数338戸。うち、桑原87戸
しょうわ ねん がつ 昭和29年10月	1954	くわはらこうみんかんせつりつ 桑原公民館設立
しょうわ ねん 昭和35年	1960	けんどう ぬまた こうづ せん せいでい 県道717号（沼田国府津）線が制定
しょうわ ねん がつ 昭和39年 7月	1964	にっぽんしんやくかぶ お だ わ ら じょうこうかんせい 日本新薬(株)小田原工場完成
しょうわ ねん がつ 昭和39年 8月	1964	お だ わ ら とう ぶ ち く のうきょうが っ べ い お だ わ ら し のうきょうきょうどうくみあいほっそく 小田原東部地区13農協合併。小田原市農業協同組合発足
しょうわ ねん がつ 昭和39年10月	1964	とうかいどうしんかんせん えいぎょうかい し とうきょうたいかいかいさい 東海道新幹線 営業開始 オリンピック東京大会開催
しょうわ ねん がつ 昭和41年11月	1966	こくどう 255 号せん お だ わ ら おお い かい っ づ しょうわ ねんはる ぜんせんかい っ づ 国道255号線 小田原—大井 開通（昭和46年春、全線開通）
しょうわ ねん がつ 昭和42年10月	1967	じょうれん じほんどう てつきん かいちく 浄蓮寺本堂、鉄筋コンクリートにて改築
しょうわ ねん がつ 昭和44年 3月	1969	お だ わ ら あ つぎ だう る かい っ づ しょうわ せいしやう ぜんせんかい っ づ 小田原厚木道路開通（昭和46年、西湘バイパス全線開通）
しょうわ ねん 昭和45年	1970	し えいくわはらじゅうたくけんせつかんりやう とう しょうわ ねんちゅうこう 市営桑原住宅建設完了（24棟。昭和36年着工）
しょうわ ねん 昭和55年	1980	げん ふ じ みちばし かい っ づ 現富士道橋の開通
しょうわ ねん がつ 昭和56年 3月	1981	げんしょうぼう こ や だい ぶんだんだい ほんつめしよ かんせい 現消防小屋（第15分団第3班詰所）完成
しょうわ ねん がつ 昭和57年 1月	1982	お だ わ ら もつこうだん ち かんせい しゃ 小田原木工団地完成（12社）
しょうわ ねん がつ 昭和58年 4月	1983	とよかわしょうがっこう かいこう 豊川小学校、開校
しょうわ ねん がつ 昭和61年 4月	1986	「ふじみの桜」 ざくら しよくじゆ さくら ど て せいび 「ふじみの桜」植樹（桜土手の整備）
へいせい ねん がつ 平成 3年12月	1991	なるだ くわはらちく とくていほりゅうくいき しがいかくいき へんにゅう 成田・桑原地区の特定保留区域が市街化区域に編入
へいせい ねん 平成 6年	1994	みしまじんじやかいしゅう 三島神社改修
へいせい ねん 平成 7年	1995	けんどう 711 号 小 だ わ ら まつ だ せんせいび かいし へいせい ねん 4 車線化 県道711号（小田原松田）線整備開始 平成29（2017）年4車線化
へいせい ねん がつ 平成19年11月	2007	ゆうりやうでんえんじゅうたくがたれん くいきかいはつきよか せいど そうせつ へいせい ねん がつ しゅうりやう 優良田園住宅型連たん区域開発許可制度を創設 平成30年11月で終了
へいせい ねん がつ 平成31年 3月	2019	お だ わ ら し とよかわししよ はいし 小田原市豊川支所が廃止

さんこう しりやう
参 考 資 料

しんべん ふ じ さん さかわがわ 「新編 富士山と酒匂川」	あしがら れきし さいはつけん (足柄の歴史再発見クラブ)
ふ じ さん さかわがわ 「富士山と酒匂川」	あしがられきし しんぶん (足柄歴史新聞)
むら かた 「村を語る」	お だ わ ら が っ べ い き ねん ぎょう (小田原合併記念号)
お だ わ ら し とうけいようらん 「小田原市統計要覧」	
かいこう しゅうねん きねん し 「開校10周年記念誌」	お だ わ ら し りつとよかわしょうがっこう とう (小田原市立豊川小学校) 等

なるだ なりた な た なるだちく 成田と成田の成り立ち（成田地区）

なるだ なりた な た 成田（なるだ）と成田（なりた）の成り立ち

なるだ さかわがわかりゆういき さがん ひがしがわ いち みなみ かんとうだい ご ばんふだしょ
成田（なるだ）は酒匂川下流域の左岸（東側）に位置し、南に関東第5番札所
いいずみかんのん ゆう いいずみ きた くわはら あいだ てんかい りょうしつ ほう ふ すいげん すいでん
の飯泉観音を有する飯泉と北の桑原との間に展開する良質で豊富な水源をもつ水田
ちたい
地帯です。

しんべんさがみのくに ふ ど きこう だいに かなり たしやう
新編相模国風土記稿の第二巻成田庄（なりたしやう）の項に、「○成田村（奈留
だむら なりたしやう なりたしやう とな そんめい よ かた こと ほんごう
駄牟良）は成田庄（奈利太志夜宇と唱え、村名とは呼び方が異なる）の本郷なり」
とあります。

そして、「この庄名は、鎌倉円覚寺蔵書の古書 文応元年（1260年）9月の文書に、
さがみのくになり た しやう はじ きさい きじゅつ
相模国成田庄と初めて記載されている」との記述があります。

このことから、もともと成田村が存在したところに、後に成田村を中心としたよ
ひろ はんい ちいき なりたしやう せいりつ うかが
り広い範囲の地域の「成田庄」が成立したことが窺えます。

「成田村」の成立を伝える確かな文献は見当たりませんが、おそらく、聖徳太子
なるとくたいし
の活躍した飛鳥時代（593～710年）から奈良時代（710～794年）の頃に農
こうみんぞく のうぎやう いと しゆうらく なるだ むら けいせい ご いちけいえいたん い
耕民族が農業を営む集落として「成田」村が形成され、その後、一経営単位または
ぎやうせいたん い しやう せいいてい ならじだい へいあんじだい ねん
行政単位としての「庄」が制定される奈良時代から平安時代（794～1192年）
にかけて「成田庄」が成立し、鎌倉円覚寺の古文書に記される鎌倉時代（1192年～）
には既に「成田庄」（貴族や武家・寺社の領地を指す荘園と同義）が確立されてい
すで なりたしやう きぞく ぶ け じしや りやうち さ しょうえん どうぎ かくりつ
たことが推測されます。

これ以後、「成田庄」は、戦国時代末期、豊臣秀吉の太閤検地（1582～1598
ねん しょう はいし そんぞく えどじだい しょうめつ りやうち
年）による「庄」の廃止まで存続し、江戸時代には消滅することとなります。領地
かんり そくめん も しょう しょうえん なりた き
管理の側面を持った「庄（荘園）」としての「成田（なりた）」は消え、もともとの
しゆうらく むら なるだ のこ
集落である「村」としての「成田（なるだ）」が残ることとなったのです。

江戸時代に言う「庄屋」は、江戸幕府や藩から任官された村役人で、幕府・藩の
りやうち ぎやうせいたん い むら せきにんしや げんだい そんちやう やくめ
領地の行政単位である「村」の責任者であり、現代の村長のような役目でした。
したが しょう そんざい えどじだい しょうや しょう ちやくせつてき なりたしやう
従って、「庄」の存在しない江戸時代に庄屋の「庄」は直接的には「成田庄」の
しょう こと むかんけい なごり むら やく せきにんしや
「庄」とは異なり無関係であるものの、その名残として「村」のまとめ役・責任者
しょうや なづ
を「庄屋」と名付けたのでしょう。

これらの経緯から、小田原市の現在の地名には、「成田（なるだ）」という地名
のこ なりた ちめい のこ せんごくじだい ほう
は残りますが、「成田（なりた）」という地名は残っていません。戦国時代に、北
じょうそうらん おだわらじやう せ とぎ おおもりし かたん ほうじやう やぶ とうじなるだむら ゆう
條早雲が小田原城を攻めた時に、大森氏に加担して北條に敗れた当時成田村の有
りよくしや なりた いちの すけ まつえい よ な なごり のこ
力者であった成田市之丞の末裔に、「なりた」の呼び名がその名残として残って
いるのみです。

● **たびたびおこる水害のため**.....

酒匂川は流れが急で、大水の時の水勢はものすごく、松田上流の大口の辺りを要として、歴史時代を通し、度々流路を変えて流れています。

新編相模国風土記稿によると、酒匂平野は4つの庄に分かれて記述してあります。西方には北の狩野庄と南の早川庄とがあり、東方には北に大井庄、南に成田庄があります。この庄の決定は江戸時代より以前のものですが、平野部の庄境には、当然酒匂川が使われた事は明らかです。ところが庄境は現在の酒匂川より西に存在し、かつて酒匂川は今の流路より西方南北に流れていたことを示しています。

● **成田村と成田庄の変遷**.....

成田庄は保元の乱のあと、1157年に後白河法皇の御料地になり、4年後の永暦2年には法皇はこの地を新日吉（いまひえ）社に寄進しました。

戦国時代には後北條氏の馬廻り衆のひとり藤田太蔵丞の所領でした。成田庄の中心であった成田村も、明治22年から豊川村に含まれ、昭和29年には小田原市に合併して「成田（なるだ）」という大字名となりました。

トピックス

「豊川は昔は村だった？」

豊川地域は明治22年「町村制施行」の際、当時の桑原村、成田村、飯泉村を統合して一村を形成し、神奈川県足柄下郡豊川村と命名しました。そして終戦後の諸制度の改革と時代の進展に伴い更に地方自治の振興、住民の福祉増進のために地方自治体の適正規模を図る「町村合併促進法」が公布されました。これに伴い豊川村も昭和29年7月15日に小田原市に編入合併することになりました。

参考資料

- 「新編相模国風土記稿」第2巻（雄山閣）
- 「村を語る」（小田原合併記念号）
- 「神奈川新聞」（昭和59年11月21日号）



飯泉観音で探してみよう（飯泉地区）

飯泉観音で探してみよう 進め方

1 小学校4～6年生と3年生以下で、2人1組とする。

2 4班同時スタートとする。

- ① A-B-C-D
- ② D-C-B-A
- ③ B-A-D-C
- ④ C-D-A-B

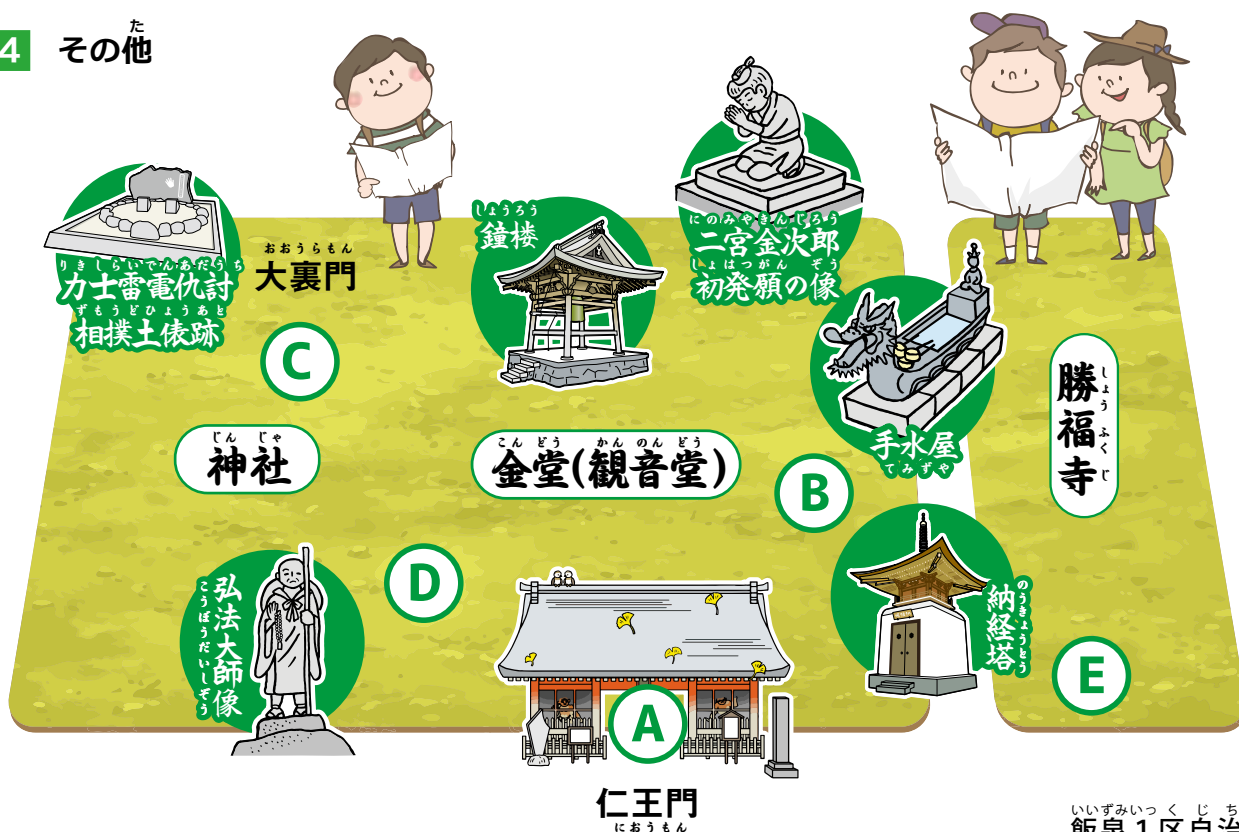
その後、3～5分間隔でスタートする。

【注意】 走らない。（早さは競わない）

3 準備品

- ① テント2基（受付用・参加賞授与用、休憩・給水用）
- ② 紙コップ、氷、お茶・水
- ③ えんぴつ、回覧板（参加者数÷2）
- ④ 参加者の区分（リボン、腕章、ハチマキ 等）
- ⑤ ホチキス
- ⑥ 方位板

4 その他



飯泉1区自治会
2021年7月作成



いいずみかんのん さが 飯泉観音で探してみよう



1 仁王門

しょうめん いりぐち あがた うんがた
正面の入口にあり、阿形・吽形の
こんごうきし そろ た
金剛力士像が立っているところです。

1. 像はいくつありますか？

2. どんな顔をしていますか？

2 納経塔

き ひとたち か きょうぶん
ここに来た人達を書いた教文が
おさ
納められているところです。

1. どんな形をしていますか？
スケッチしてみよう。



3 青龍水の名井戸

い どみず く の いずみ
この井戸水を汲んで飲み「アアいい泉」
とほめたことにより、「いいずみ」の地
めい ち
名になったという伝説もあります。

1. どんな形をしていますか？
スケッチしてみよう。



4 新四国八十八カ所

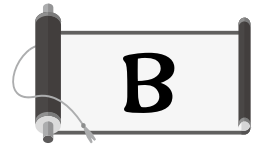
すうじ てら なまえ か
ここには数字とお寺の名前が書かれた
いし はちじゅうはち こ
石が、八十八個あります。

1. 次の番号に書かれてるのは？

ばんごう 番号	てら なまえ お寺の名前
番 二	
番 六	
番 一十三	
番 七十三	
番 三十五	



い い ず み か ん の ん さ が
飯泉観音で探してみよう



1 て み づ や
手水屋

おまいりに来た人が、手を洗って
清めるところです。

- 顔は何の顔ですか？(○をしよう)
(うま・リゆう・ねこ・さる)
- ()にこたえましょう。

ぜんちよう 全長 ()センチ
たか 高さ ()センチ
はば 巾 ()センチ

2 み づ む け じ ゅ う さ ん ぶ つ
水向十三仏

せきぞう 石像がたくさん並んでいます。

- 何人が並んでいますか？
()人
- 座っているのは？

- ① 右から()番目
- ② 左から()番目

3 し ょ う ろ う どう し ょ う
鐘楼 (銅鐘)

12月31日に除夜の鐘をついたりし
ているところです。

- 銅鐘はいつ、だれが
作りましたか？

- ① 寛永()年・()年
- ② ()作
- ③ 総高()センチ
- ④ 口径()センチ

4 に の み や き ん じ ろ う し ょ ほ つ が ん そ う
二宮金次郎 初発願の像

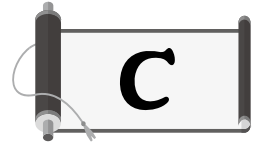
昔、二宮金次郎先生が14歳の時に、
「ここでお経を聞いて、もう一度聞かせ
てください。」とお願いをしたと言
い伝えがあります。

- どんな形をしていますか？
スケッチしてみよう。





い い ず み か ん の ん さ が 飯泉観音で探してみよう



1 だ い に ち ど う 大日堂

ひがし きた たてももの
東と北におがむところがある建物です。

1. だてももの
どんな建物でしたか？
スケッチしてみよう。



2 り き し ら い で ん あ だ う ち ゑ ん も う ど ひ よ う あ と 力士雷電仇討相撲土俵跡

お だ わ ら し ょ う か す も う ゆ る
小田原城下では相撲は許されず、この
けい だ い ど ひ よ う
境内に土俵をつくったということです。

1. らいでん
雷電はどんな人でしたか？

- ① しんちよう () しゃく () すん
身長 () 尺 () 寸
② たいじゆう () かん
体重 () 貫

2. て おお
手の大きさはみんなより？
(ちい ちい ・ おお おお ・ いっしょ)
(小さい ・ 大きい ・ いっしょ)

3 お お う ら も ん 大裏門

かんのんどう ほくせい かど
観音堂の北西の角にあり、みんなを
まも かみさま おお もん
守る神様がいる大きな門です。

1. だてももの
どんなものですか？
スケッチしてみよう。



4 ば と う ど う 馬頭堂

はちがっけい たてももの たてももの ほう
八角形の建物で、建物のうえの方に
うま か
馬が書かれています。

1. たてももの なか いっとううま
建物の中に一頭馬がいます。

たてももの なんとう うま
この建物に何頭の馬がいますか？

() とう
() 頭



飯泉観音で探してみよう



1 金堂(観音堂)

飯泉観音に来たら一番大きな建物で
みんながおがむところです。

1. 正面左の看板を見て、この
境内の樹は何がありますか？

- ()
- ()
- ()
- ()
- ()
- ()
- ()

2 烏樞沙摩閣・東司

むずかしい名前がついていますが、
みんながいつも使うところです。

1. 何をするとところですか？
○をつけよう。

(体育館 ・ 教室 ・ トイレ)

3 弘法大師像

人びとに、いろいろなことを教えてく
れたえらい人です。

1. どのような姿ですか？
○をつけよう。

- ① 立っていた・座っていた
- ② 何を持っていますか？

右手(ごはん・てっぼう・こんぼう)

左手(おかず・じゆず・ふうせん)

4 大銀杏

神奈川県指定の天然記念物で境内の中で
ただ1本の男いちょうです。

1. 何て書いてありますか？

① 樹高 ()メートル

② 胸高周囲 ()メートル

③ 樹齡 (約)年



い い ず み か ん の ん さ が
飯泉観音で探してみよう
ど こ に あ る か 見 て こ よ う 。



1 **し き や く も ん**
四脚門

ちゅうおう おやぼしら よんぼん ひかえぼしら
中央に親柱、四本の控柱、これを
きゃくよ しきやくもん い
脚と呼び四脚門と言われます。



2 **ほんぼうくり**
本坊庫裡

しょうふくじ こ きやくさま
勝福寺に來られた、お客様や
ぼうづか ばしよ
お坊さまが使う場所です。



3 **ほんどう**
本堂

だんか ほうよう
檀家の法要をするところです。



4 **みなみもん**
南門

ほんぼう せいもん た
本坊の正門として、建てられて
います。



とよかわ ちいき うんえいきょう ぎ かいだいい ぶん か かい れいわ ねん ど
豊川地域コミュニティ運営協議会第3分科会 (令和3年度メンバー)

ぶん か かい ちやう おおかわ しんざく
○分科会長 大川 晋作

ふくぶん か かい ちやう おくつ たかひろ
○副分科会長 奥津 隆宏

い い ん
○委員

かとう 加藤 やまぐち 山口 かやもと 栢本 ながやま 永山 ふるや 古谷	じゆんいち 純一 としお 登志夫 なのおゆき 尚之 (千代中学校長) けんじ 健治 (鴨宮中学校長) としゆき 俊之 (桑原地区オブザーバー)	わだ 和田 さわじ 澤地	みちあき 道明 みつはる 光春	なりた 成田 なかむら 中村 くわはら 栞原 いけだ 池田 かとう 加藤	よういち 洋一 まり 真理 こう 光 (豊川小学校長) なのみ 直美 (豊川保育園長) まさはる 昌治 (桑原地区オブザーバー)	こまつ 小松 いしい 石井 ひでき 秀樹 のぼる
--	--	-----------------------	--------------------------	---	---	--



とよかわ ちいき うんえいきょう ぎ かいだいい ぶん か かい ぶん か れき し きやうい く さくせい さつし
豊川地域コミュニティ運営協議会第3分科会(文化歴史・教育)作成の冊子

- どうそじん や へいせい ねん ど
「道祖神とどんど焼き」(平成29年度)
- おんこ ちしん とよかわものがたり へいせい ねん ど
「温故知新～豊川物語」(平成30年度)
- とよかわ ちく まつ れいわ がんねん ど
「豊川地区のお祭り」(令和元年度)
- ぞく おんこ ちしん とよかわものがたり れいわ ねん ど
「続・温故知新 ～豊川物語2021～」(令和3年度)

きかんし おだわらしじちかいそうれんどうのホームページを御覧ください。
<https://odawara-jichisoren.net/section/toyokawa/>

